

## 大崎町、鹿大連携 外国人向け日本語教室

# 住民と交流「楽しい」

## 同じ趣味の話でにぎわう

大崎町と鹿児島大学法文学部の酒井祐輔准教授のゼミは11日、町在住の外国人向けに日本語教室を開講した。地域の実情に合った手法やニーズを探る実証事業で、延べ4日間開く。



＝大崎町のマルおおさき

日本人と自己紹介の練習をする在住外国人（右側）

大崎町は総人口に占める外国人の割合が約3%と県内でも高く、多文化共生社会づくりに力を入れている。法経社会学科地域社会コースの酒井准教授のゼミはこれまで、町をフィールドに多文化共生に関するワークショップや公開講座などを実施している。

講師は鹿大グローバルセンター非常勤講師などを務める山下直子さん(38)＝鹿児島市。11日はシエラスベス「マルおおさき」であり、フィリピン、ベトナム出身の7人のほか、町職員や住民らも参加した。

山下さんが自己紹介のやり方を指導し、実際に日本人とあいさつを交わしてもらった。料理やスポーツなど趣味が同じ人を見つけてグループをつくり、共通の話題で盛り上がりつつあった。町内の男性と結婚し、来日1年というベトナム出身のゲン・ベト・ハさん(35)は「日本語は難しいけど、楽しかった。また参加したい」と笑顔を見せた。

教室は25日、10月9、23日にも開く。酒井准教授は「いずれは地域の人が教えることができるよう手法の『見える化』が目標。こうやって日本語を教えたいとみんなが学べる場になれば」と話している。(永野雄一)